

一刻も早い核廃絶誓う

宮野尾の最終処分場計画を断念 地域住民の粘り強い姿勢が奏功



上越原水協が定期総会

原水爆禁止上越市協議会（本間勝会長）は、23日、市内で定期総会を開催し、今年度の活動方針などを決定しました。（写真は挨拶する本間会長）

昨年、国連で採択された「核兵器禁止条約」の調印・批准は各国で順調に進み、現在59か国が調印し、10か国から批准書が国連に届いていることが報告されました。この条約は、50か国目の批准書が国連に届いてから90日目に発効します。

同総会では、「ヒバクシャ署名」をさらに力強く進め、一刻も早い条約の発効をめざすことを誓い合いました。

また、恒例の平和行進が29日に上越市内を縦断することから、多くの市民に参加をよびかけ、核廃絶に向けた世論を高めていくことを確認しました。

29日の平和行進は、直江津の海浜公園で朝9時から出発セレモニーを行った後、行進を開始します。



6月議会では、これまで宮野尾地区に建設するとしてきた廃棄物最終処分場について、同地域での建設を断念することが明らかになりました。（「みらい」の波多野議員の一般質問）

宮野尾地区は、左の地図の通り、以前不法業者による廃棄物被害に苦しめられた虫生岩戸地区の上流にあたるほか、正善寺ダムにも近い地域です。また、この地域を建設候補に挙げた際には、県は合計8箇所を同時に調査してその中からこの地域を候補としたとしていますが、他の7箇所については、

久保田由夫・上田市議を囲んで



23日、谷浜地区では、日本共産党の上田市議会議員久保田由夫氏を囲む集いが行われました。同氏のご当地谷浜地区の出身で、高田工業高校（当時）を卒業後、就職先のある長野県丸子町の町議会議員を経て上田市議として活躍しています。

集いでは、土口谷浜停車場線の拡幅や改善などの要望も出され、同席した橋本正幸議員と平良木哲也前議員が声を受け止めました。

その場所すら明らかにしていません。日本共産党議員団は、「居住地のすぐ上流は最終処分場にはふさわしくない。他の候補地の調査結果を明らかにして再検討すべきだ」と一貫して主張してきました。今回の市の方針は、これまでの地域住民の粘り強い姿勢が実を結んだものと言えます。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.593 2018年7月1日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)